

# 理事長挨拶

**学校法人 加計学園**

**理事長・総長 加計 晃太郎**



戦後、創立者加計勉は、一面の焼け野原となった広島の中で「資源の乏しい我が国の復興には教育こそ肝要」との信念のもと教育の道を志し、昭和36年に加計学園を設立しました。以来、「ひとりひとりの若人が持つ能力を最大限に引き出し技術者として社会人として社会に貢献できる人材を養成する」という建学の理念のもと時代や社会のニーズを先取りした特色ある教育研究事業を展開し、現在、3大学、1高等学校、1中学校、3専門学校を擁する中四国で有数の教育研究機関へと発展して参りました。

平成23年に、創立50周年を迎えることができましたが、これもひとえに学内外の関係者各位のご支援、ご協力の賜であり、改めて御礼申しあげる次第です。また、その前年に本学園が設置する岡山理科大学及び倉敷芸術科学大学において教鞭を執られた鈴木章教授がノーベル化学賞を受賞されたことは、堅実な科学的基礎研究と高度な専門技術を重視した教育を行ってきた私ども教職員にとって何よりの朗報でありました。

しかしながら、その反面、3月11日に発生した東日本大震災は、未曾有の大災害を引き起こし、この大震災によって、大自然の大いなる力に対して私たち人類がどのように対処していくことができるのかを改めて考えさせられたとも言えます。現代のようにグローバル化した現代社会においては、科学技術の進歩と人間社会との調和、国際性、さらには危機管理の専門性を身につけた人材育成が急務であると、学校教育に携わる者の使命と責任の重さを痛感しております。

そして、その震災のあった年に奇しくも学園創立50周年を迎えた本学園は、その経験を活かし、学園の原点である建学の理念に立ち返り、如何にしてこれからの時代と社会に貢献できる人材を育成していくか、そのために如何にして独自の教育研究機関をさらに充実させていくかという点に教職員の総力を結集しなければならないと改めて決意した次第です。「資源の乏しい我が国の復興には教育こそ肝要」という創立者の言葉を今こそ、思い起こす時であります。

このように、平成23年度は過去の半世紀にわたる本学園の成果を確認すると同時に、今後を見据える良い機会となりました。